教　育　研　究　業　績　書

2025年　5月　1日

氏名　大　澤　亜　里

研究分野	研究内容のキーワード
1．教育学	教育学
2．社会学	社会福祉学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例 1）「保育原理」の学生教育指導	平成27年4月～現在	・毎回、視聴覚教材を利用し、具体的にイメージし理解できるように進めている。 ・保育の歴史においては幼児教育思想家や実践家の原著、現代の保育問題においては新聞記事や関連法等、様々な文章を読み、考える機会をつくっている。 ・毎回リアクションペーパーに授業に対する感想や意見、質問等を書いて提出してもらい、次の授業でそれに返答するという方法で、一方的な授業にならないよう進めている。
2）「保育内容総論」の学生教育指導	平成27年4月～現在	・個別ワークやグループディスカッション、全体交流など様々な形態を取り入れながら学生が積極的に授業に参加できるように進めている。 ・様々な事例を提示し、子どもの姿を想像しながら考えられるように進めている。 ・リアクションペーパーを通して双方向授業を行っている。
3）「保育内容（言葉）」の学生教育指導	平成27年4月～現在	・児童文化財に関する基本的な知識を習得した上で、子どもの姿を想像しながら実際に絵本の読み聞かせやパネルシアターの作成を行っている。 ・実際に子どもの言葉を観察し、その記録をもとに個別ワーク、グループディスカッション、全体交流を行い、子ども理解および言葉の発達過程の理解に努めるとともに、学生が積極的に授業に参加できるようにしている。 ・リアクションペーパーを通して双方向授業を行っている。
2　作成した教科書，教材 『ヤヌシュ・コルチャック著 子どもをいかに愛するか他―コルチャック著作集―』	平成28年3月	教員・保育者の養成を目的として、教育思想および教育実践に関するヤヌシュ・コルチャックの著作を翻訳しまとめた教育用テキストを共同で作成した。「教育の瞬間」の翻訳を担当。 塚本智宏・渡辺徹・石川道夫・鈴木（大澤）亜里訳
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項 特記事項なし		
5　その他 特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許	平成17年3月31日 2023年4月13日	小学校教諭一種免許状 保育士資格（登録番号北海道-074586）
2　特許等		特記事項なし
3　実務の経験を有する者についての特記事項 1）第３７回全道保育団体合同研究集会・講座での講師	平成24年6月	講座「なぜ“子どもの権利”が大切なのか？」で講師を務め、その中で、ポーランドが子どもの権利の条約化を提案した理由を手掛かりに、子どもの権利条約ができる社会的背景やそれを支えた思想的背景について発表した。(『第37回全道保育団体合同研究集会要項』、2012年)
2）北海道子どもの虐待防止フォーラム専門職のための子どもの虐待に関する研修 分科会での講師	平成26年3月	分科会「社会的養護の真空地帯―制度の谷間でもがく子どもたち」で講師を務め、子どもの社会的養護と「18歳問題」について、また自立援助ホームの意義と課題について発表する。(「巻頭言【専門職のための子どもの虐待に関する研修】での報告から」『北海道子どもの虐待防止協会会報84号』、2014年)
3）北海道乳幼児療育研究会第２９回研究大会 分科会「保育」でのコメンテーター	平成27年10月31日	「その子らしく、その親らしく」を支える保育とはというテーマで開催された保育分科会においてコメンテーターとして参加し、障がいのあるなしに関わらず、「その子らしく、その親らしく」を支え、子どもの権利を保障する保育者のあり方について提言している。(「子どもの権利保障の視点から【その子らしく、その親らしく】を支える保育を考える」『乳幼児療育研究』第29号、2016年)
4）放課後児童支援員認定資格研修・講師	2019年度～2023年度	北海道が北海道学童保育連絡協議会に事業委託した放課後児童支援員認定資格研修事業にて講師を務めている。担当科目は「放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護」および「子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ」である。
4　その他		特記事項なし

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. さっぽろ子ども・若者白書2020	共著	2021年3月	「さっぽろ子ども･若者白書」をつくる会	札幌市の子ども・若者の未来を考えるために当事者、実践者、研究者など総計103人が、3つの特集、①子どもの権利、②家庭・家族、③貧困・格差と、5つの柱1）医療・福祉、2）発達・教育、3）地域、4）若者、5）メディアについて執筆している。その中で、「乳幼児期の子どもの権利とその現状」と題して、乳幼児期の子どもの権利の捉え方や保育・幼児教育における子ども観について、また乳幼児の権利を実現するための札幌市の取り組みや課題、ポーランドの権利保障活動について執筆した。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 2．ヤヌシュ・コルチャックの教育実践―子どもの権利を保障する施設養育の模索	単著	2022年2月	六花出版	ヤヌシュ・コルチャックが院長を務めた孤児院ドム・シエロットの教育実践を歴史的かつ具体的に明らかにし、彼の思想の形成・深化の過程について検討した。序章：先行研究の整理と本書の課題、第1章：青年コルチャックの実践経験と教育思想の形成（1912年以前）、第2章：孤児院ドム・シエロットの設立（1912年）、第3章：ドム・シエロット開設後の教育実践―多様な教育方法の試みとその実際（1912-1920年）、第4章：独立国家ポーランドにおけるドム・シエロットの教育実践の展開（1921-1928年）、第5章：孤児院ナシュ・ドムの教育実践（1919-1928年）、第6章：ドム・シエロットの危機と教育実践の継続（1929-1939年）、終章：コルチャックの実践の変遷とその背景―本書で明らかになったこと、補論：ドム・シエロットの教育実践とコルチャックの子どもの権利思想で構成。
3．ヤヌシュ・コルチャック　コルチャク　ゲットー日記	共著	2023年11月	みすず書房	本書は、ヤヌシュ・コルチャクがワルシャワ・ゲットーにて、1942年5月から、トレブリンカ絶滅収容所に移送された日の前日（同年8月4日）まで記した日記の全文邦訳書である。執筆を担当した解説「ヤヌシュ・コルチャクの生涯と孤児院ドム・シェロットでの教育実践」（本書pp.169-184）では、コルチャクの家族のことや幼少期から青年期の経験、彼の業績、特にゲットー日記の中で多く記述されている孤児院ドム・シェロットでの教育実践について解説している。また第二次世界大戦下のワルシャワにおける児童保護活動について概観した上で、ゲットー内でのドム・シェロットの実践や日々の暮らし、そして絶滅収容所に向かう“最後の行進”についても解説している。 田中壮泰・菅原祥・佐々木ボグナ監訳／野村真理・細見和之・大内隆一・細谷徹・佐伯彩共訳／大澤亜里・野村真理解説
4．シードブック　新版　子ども家庭福祉［第2版］	共著	2025年2月	建帛社	テキスト第2章子ども家庭福祉の歴史的変遷の章末のコラムに、「コルチャックの教育実践と子どもの権利」というタイトルで、子どもの権利を尊重した教育実践について紹介をした。 山田勝美・艮香織編著／第2章所貞之・第2章コラム大澤亜里

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 1. Teoria i praktyka pedagogiczna Janusza Korczaka-system wychowawczy w Domu Sierot i Naszym Domu （ヤヌシュ・コルチャックの教育理論と教育実践―ドム・シエロットおよびナシュ・ドムにおける教育体系に着目して） （修士論文）	単著	平成22年9月	国立ワルシャワ大学 教育学部	ヤヌシュ・コルチャックが院長を務めたユダヤ系の孤児院ドム・シエロットおよび彼が専属医、共同運営者として関わり、マリア・ファルスカが院長を務めたポーランド系の孤児院ナシュ・ドムの生活全体を導いていた教育体系の実態を包括的に分析・検討している。コルチャックの子どもの権利思想の中心的位置を占める、“今日という日を生きる”ということを保障する上で重要な役割を果たした教育体系が実際どのように機能していたのかを明らかにしている。
2. サマーキャンプと青年コルチャック―子ども集団との初めての出会い	単著	平成23年11月	北海道大学大学院 教育学研究院 教育福祉論分野 教育福祉研究 第17号、pp.37-50	ヤヌシュ・コルチャックが青年時代に参加したサマーキャンプでの教育実践の様子を具体的に紹介しながら、彼が子どもたちとどのように関わり、またそこから何を学んだのかについて論じている。サマーキャンプとは、貧困家庭の子どもたちの健康回復と心身の発達を保障するために、夏の約１か月間にわたり郊外のキャンプ施設で行われた医療的教育的活動である。本論文ではこのサマーキャンプ活動の起源やその具体的内容についても明らかにしている。
3. ポーランドにおけるコルチャックに対する関心―戦後から現在に至るまで	単著	平成24年7月	北海道臨床教育学会 北海道の臨床教育学 創刊号、pp.39-45	日本においてヤヌシュ・コルチャックはどのような人物として理解されているか、また本国ポーランドではどのように評価されてきたのか論じている。現在においてコルチャックは一般に「子どもの権利のために闘った世界的に有名な先駆者」と評価されており、彼の没後70年にあたる2012年をポーランド政府は「ヤヌシュ・コルチャック年」と制定し、子どもの権利に関わって様々な活動を行った。その時のポーランド国内における取り組みについても紹介している。
4. コルチャックの孤児院ドム・シエロットの設立と歴史的背景 （査読あり）	単著	平成26年6月	北海道大学大学院 教育学研究院紀要 第120号、pp.53-81	ヤヌシュ・コルチャックが院長を務めた孤児院ドム・シエロットの設立過程、設立時のコルチャックの意図やそれが開設後どのように実現されていたかを明らかしている。その際、当時ロシア支配下にあったポーランドワルシャワにおいて設立・普及した乳児のための施設や幼児のための施設、男子のための技術教室、女子のための裁縫教室といった児童保護施設について概観するとともに、当時のワルシャワの孤児院の状況を概観し、その特徴を明らかにしている。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 5.コルチャックの思想および養育実践に関する研究の成果と課題	単著	平成27年3月	北海道大学大学院 教育学研究院 教育福祉論分野 教育福祉研究 第20号、pp.135-148	本論文では、第一にポーランドおよび日本におけるコルチャック研究を概観し、第二に日本の先行研究―そのほとんどが思想研究である―で明らかにされてきたコルチャックの子ども観、子どもの権利思想、教育思想について整理し、第三に両国における養育実践に関する研究の到達点を示し、今後の課題について検討している。
6.孤児救済協会の児童保護活動と孤児院ドム・シエロットにおける子どもの自治組織１９１２－１９２０年―“係り仕事”と“仲間裁判”の展開―（査読あり）	単著	平成28年3月	社会事業史研究 第49号、pp.35-50	1912年から1920年に焦点をあて、孤児院ドム・シエロットの設立母体である孤児救済協会の児童保護活動とその運営状況について明らかにしている。またドム・シエロットの教育実践、特に子どもの自治組織である“係り仕事”と“仲間裁判”が実際にどのように展開されたのかを明らかにし、それを通して設立時にコルチャックが目指した孤児院は実現されていたのか検討している。
7. 子どもを理解し言葉の発達を支える保育者の養成	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第47号、pp.121-127	「保育内容（言葉）」の授業実践について報告をし、その成果と課題を明らかにしている。学生は、授業を通して子どもの言葉や表情、行動を通して子どもの内面や援助のあり方について考察すること、他者と意見交換をする中で様々な捉え方や考え方に気づくこと、実際の子どもの姿を通して言葉の発達過程を理解することができた一方、発達過程に応じた言葉の発達の援助については十分に考察できていなかったという課題を指摘している。（「保育内容（言葉）」の授業担当者、執筆主担当者） （共著者）大澤亜里、星信子、秋山ゆみ子
8. 実習事前指導としての実習指導―実習力アップに焦点をあてて―	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第47号、pp.107-120	授業「保育技術演習」の中心である附属幼稚園におけるグループでの指導実習において、実習のどの様な場面でどの様に意欲や自信が生まれるのかを実習終了後の振り返りレポートから、迷いや意欲喪失につながった内容との比較も加えて考察している。（共同研究により抽出不可能。執筆主担当者と何度も議論を重ね意欲や自信につながった事例を学生のレポートから抽出した。） （共著者）秋山ゆみ子、星信子、大澤亜里、大西道子）

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 9．子どもの人間関係の育ちを支える保育者の働きかけ―保育者養成課程に在学する学生の実習中の気づきから―	共著	平成30年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第48号、pp.81-89	保育者養成課程に在学する学生213名が実習中にとらえた保育者の働きかけを分類することで、子どもの人間関係の育ちを支える保育者の働きかけの実際について検討している。保育者の働きかけは、対象とする子どもの年齢や発達に応じて、拠り所となるようなものから、自律的な共同を見守るものまで段階的に変化していっていること、またその内容は非常に多岐に渡り、保育内容の領域「人間関係」の内容をほぼ網羅するものであることを指摘している。(共同研究により抽出不可能。主に保育者の具体的働きかけの分類を担当した。) （共著者）星信子、秋山ゆみ子、大澤亜里
10.ポーランドの児童保護と孤児救済協会の活動（１９２１－１９２８年）（査読あり）	単著	平成30年9月	社会事業史研究 第54号、pp.83-95	1921年から1928年の独立国家ポーランドに焦点を当て、第一次世界大戦の結果生じた膨大な数の孤児および社会的保護を要する子どもに対応するために制定された児童保護関連法令について概観した上で、入所型の児童保護施設数およびその種類を把握した。その上で、ワルシャワのユダヤ系の孤児および貧困児を対象に児童保護活動を展開した孤児救済協会の事業と財政状況、また同協会が運営した孤児院ドム・シエロットの生活実態を明らかにした。
11．ヤヌシュ・コルチャックの教育実践 （博士学位論文）	単著	平成30年9月	北海道大学大学院 教育学院 pp.1-152	ヤヌシュ・コルチャックが院長を務めたユダヤ系の孤児院ドム・シエロットにおける教育実践を歴史的かつ具体的に明らかにし、彼の子ども観および教育思想の形成や深化を捉えると同時に、その教育実践を可能にした具体的条件としてドム・シエロットを設立した孤児救済協会の運営状況と、その歴史的背景として当時のポーランドおよびワルシャワの児童保護の状況について明らかにした。
12.子どもの生存権保障と学童保育の可能性―ヤヌシュ・コルチャックの思想と実践から考える―	単著	平成30年11月	学童保育研究、第19号 pp.69-79	現在の日本において子どもの生存権保障がどのように規定され理解されているのかを整理した。また国連子どもの権利条約の精神に影響を与えたとされるヤヌシュ・コルチャックの児童保護活動と彼が活躍した時代のポーランド社会について概観した上で、彼が主張した子どもの権利の内、“自由のマグナカルタ”と呼んでいる三つの基本的な権利（生存権）の意味を解釈し、それを実現した孤児院実践について言及した。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 13.コルチャック先生と子どもの権利―社会的養護の視点をふまえて―	共著	2020年3月	社会的養護とファミリーホーム、第10号 pp.12-16	1.コルチャックの生涯と基本思想、2．コルチャックの子どもの権利思想、3.コルチャックの孤児院と養育実践、4．コルチャックの孤児院と子どもの権利、というテーマについて端的に論じている。後半の3、4について執筆した。3ではコルチャックが院長を務めた孤児院における実践のしくみと内容について、1920年代末までに達成された形を示した。4では1927年の講義記録「個人としての子どもの権利」を手掛かりに、孤児院の実践を子どもの権利を視点に整理、検討した。
14.政令指定都市における保育士の労働実態と課題	共著	2022年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要、第52号 pp.103-118	政令指定都市の保育士の労働実態を把握した上で、今後の課題を検討した。給与に対する不満は依然として高く、労働に見合う十分な給与やワークライフバランスが保障されていないなど、未だに改善されていない労働環境の実態が明らかとなった。賃金向上を含めた待遇改善はもちろんのこと、さらには保育士の具体的な業務内容について検討と整理が必要であることがわかった。（第1章、第2章、第4章の執筆を担当） （共著者）今西良輔・大澤亜里・山内太郎・保田真希
15.保育内容領域「言葉」の変遷と歴史的背景―「何をどのように指導するのか」に着目して	共著	2022年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要、第52号、pp.71-88	幼稚園教育要領おける保育内容の領域「言葉」に示された指導内容と指導方法が戦後どのように変遷してきたのかを明らかにすると同時に、当時の社会的状況からその変遷の意味を捉えた。その上で、現行の幼稚園教育要領では「何をどのように指導する」ことが重視されているのかについて、またそれをもとに「領域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法」に設置されている科目の授業内容について検討した。（第1章、第2章から第4章の社会的状況の部分、第5章の執筆担当） （共著者）大澤亜里・山田千春

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （翻訳） 1．ヤヌシュ・コルチャック著『教育の瞬間』	共著	平成20年3月	名寄市立大学紀要 第2号、pp. 49-95	ヤヌシュ・コルチャックが教育者の養成を意図して書いた著作『教育の瞬間』（初版1919年、第2版1924年）を翻訳した。『教育の瞬間』はコルチャック自身が幼稚園や小学校等で行った子どもの観察の記録であり、子どもの言動や子ども同士のやりとり、教育者と子どものやりとり等のメモと、それについてコルチャック自身が熟考したことが書かれている。 （共著者）塚本智宏、鈴木（大澤）亜里
2．W．タイス著「ヤヌシュ・コルチャック政治的肖像」	共著	平成21年3月	名寄市立大学紀要 第3号、pp. 111-122	ワルシャワ大学時代の指導教官であり、コルチャック研究者でもあるW．タイス教授（専門は社会教育学）の論文「ヤヌシュ・コルチャック政治的肖像」（1994年）を翻訳した。本論文は、戦後から体制転換までのポーランドにおけるコルチャック像の変遷を、受難、宗教、イデオロギーのそれぞれのパースペクティヴにおいて論じている。 （共著者）塚本智宏、鈴木（大澤）亜里
3．W．タイス著「ポーランドの戦争孤児（1939-1945年）―問題の俯瞰―」	共著	2020年3月	東海大学国際文化学部紀要 第12号、pp. 161-181	W．タイス氏による第二次世界大戦期ポーランドの戦争孤児の問題を取り扱ったポーランド語論文の翻訳紹介である。前半は、戦争の目撃者かつ被害者としての子ども（1944-1948年）、ヒトラーの重大犯罪“死の装置”（1956-1980年）、ファシズムとコミュニズムの犠牲者としての戦争孤児（1989年以降）というテーマをめぐって集められた研究が示されている。後半は戦争被害者である子どもたちの集団的肖像を描くことが試みられている。 （共著者）塚本智宏、大澤亜里
（口頭発表） 1．コルチャック著『教育の瞬間』（1919年）を翻訳しながら	単著	平成19年8月	日本教育学会第66回大会発表要項 pp. 340-341	ヤヌシュ・コルチャック著『教育の瞬間』の翻訳を通して、彼が子どもとどのように関わり、子どものどのような行動、発言、状態に注目し、そこから何を考え、どのようなことを学んだのかについて、いくつかの事例を取り上げて発表した。
2．サマーキャンプと青年コルチャック―子ども集団との初めての出会い	単著	平成23年8月	日本教育学会第70回大会発表要旨集録 pp. 82-83	コルチャックが青年時代に参加したサマーキャンプにおけるエピソードをいくつか紹介し、子どもに対する姿勢や子どもとの関わり方、気づき、学びなど、そこでコルチャックが経験したことについて発表した。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（口頭発表） 3．19世紀後半から20世紀初頭のワルシャワにおける児童保護活動とヤヌシュ･コルチャックの孤児院	単著	平成25年9月	日本社会福祉学会 第61回秋季大会発表要旨集 pp.223-224	孤児院ドム・シエロット設立時のコルチャックの意図やそれが開設後どのように実現されていたか、また当時の一般的な孤児院との違いについて発表した。
4.博士論文『ヤヌシュ・コルチャックの子ども観と養育実践』―構想および研究方法の検討―	単著	平成26年5月	社会事業史学会 第42回大会報告要旨集 pp.108-109	博士論文の目的および課題、収集資料について発表し、その構想および研究方法について検討した。
5．ヤヌシュ・コルチャックおよびマリア･ファルスカの理論と実践	単著	平成28年8月	日本教育学会第75回大会発表要旨集録 pp.120-121	コルチャックと親交の深かったマリア・ファルスカ（孤児院ナシュ・ドムの院長）の教育理論とそれを体現した教育実践について明らかにしている。ナシュ・ドムの教育目的を実現するための4つの組織―生活に必要な仕事の分担、生活上のあらゆる問題の解決と決定、日々の出来事・問題・情報の伝達と共有、自分自身についての理解と自己改善―に関するエピソードを発表しそれらの意義を検討した。
6．ポーランドの児童保護事業と孤児救済協会の活動（1921-1928年）	単著	平成29年5月	社会事業史学会第45回大会報告要旨集 pp.68-69	第一次世界大戦後に独立したポーランドの憲法には教育の義務化・無償化が明記され、また児童保護関連法令の制定によって、児童保護施設に入所している子どもを含め、全ての子どもに対する教育の保障が目指されたことを指摘した。その上で、孤児救済協会が運営する様々な施設における教育・養育内容とその実践について明らかにし、当時のポーランド社会における役割や意義について検討した。
7．コルチャックの孤児院教育実践と子どもの権利―1920年代における子どもの自治の展開	単著	2019年8月	日本教育学会第78回大会　学習院大学	コルチャックが院長を務めた孤児院ドム・シエロットにおける教育実践の1920年代の展開を明らかにしながら彼の権利論の具現化について検討することを目的とし、子どもの解放を実現するための教育方法が孤児院設立後どのように導入され、1920年代に展開したのか、その過程について報告した。
8．保育者養成と子どもの権利	単著	2019年8月	北海道子ども学会 第24回大会 北星学園大学	子どもの発達要求を理解し尊重すること、また子どもを主体的な人間として尊重し信頼すること、このような意味での子どもの権利について理解を図るため、保育者養成課程においてどのような教育を行っているか、その現状と課題について報告した。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（口頭発表） 9．コルチャック資料と研究動向―ポーランド語版全集とコルチャック研究	単著	2021年8月	日本教育学会大会研究発表要項、第80号、pp.91-92	1992年から刊行が開始した『コルチャック全集』（全16巻の内、15、16巻未刊）の各巻に収められているコルチャックの著作について紹介した。またコルチャックの実践研究を進める中で注目している彼の著作の内、日本において頻繁に言及されているもの以外に、「生活の学校」や戦間期に様々な雑誌に掲載された教育学的論文、子ども向けの雑誌に掲載されたものなど、日本ではあまり取り上げられていない著作について紹介した。
10.困窮する保育士の勤務実態と今後の展望―政令指定都市の現状から	共著	2021年9月	保養協ブロック研究助成報告	政令指定都市にある保育所、幼保連携型・保育所型認定こども園、小規模保育486園に勤務する保育士を対象にWebアンケート調査を実施し保育士の労働実態を把握した結果を報告した。現在の給与に対する満足度が低く、6割程度が不満を抱いていること、また賃金が働き方に見合っていないという不満を抱いている者が6割以上いることが明らかとなるなど、先行研究と同様の結果が得られた。 （共著者）今西良輔・大澤亜里・山内太郎・保田真希
11．夜間・深夜労働の保護者を支える夜間保育施設の保育と子育て支援	共著	2025年1月	貧困研究会第17回研究大会、沖縄大学	夜間（21時以降）の時間帯に保育施設を利用している保護者を対象に、生活、仕事、子育ての状況やニーズ等についてインタビュー調査を行い、その成果を報告した。今回の調査からは、経済的にも時間的にも余裕がない保護者は、体調不良の時も仕事を休まず自身の健康を犠牲にしながら生活をまわしていることが明らかとなった。また育児を主に担っている母親は、子どもの生活リズムや健康状態、就学後の夜間保育等について考えながら、今後の職業や働き方を選択していることがうかがえた。 （共著者）大澤亜里・大澤真平・山田千春
（その他） 1.コルチャック生誕130周年記念シンポジウムに参加して	単著	平成22年4月	（社）農山漁村文化協会保健室 第147号、pp.70-72	子どもの権利条約の国連採択20年、日本批准15年、そして子どもの権利条約の思想に大きな影響を与えたとされているヤヌシュ・コルチャック生誕130年を記念したシンポジウム（2009年11月23日、明治大学）に関する報告で、このシンポジウムにポーランドから招聘されたタイス教授夫妻の講演の内容について紹介している。またポーランドで開催された子どもの権利条約国連採択20年を記念する集会について紹介している。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） 2．ポーランド・コルチャック研究①留学の決意と滞在一年目	単著	平成24年2月	（社）農山漁村文化協会 保健室 第158号pp. 68-69	ポーランドでコルチャック研究をするに至った経緯と、当時の日本のコルチャック研究の限界を指摘している。
3．ポーランド・コルチャック研究②コルチャックの故国ポーランドの姿	単著	平成24年4月	（社）農山漁村文化協会 保健室 第159号、pp. 66-67	現在のポーランド、ワルシャワの姿と、コルチャックが生きた時代のポーランド、ワルシャワの姿を対比させながら紹介している。
4．ポーランド・コルチャック研究③コルチャック協会との出会い	単著	平成24年6月	（社）農山漁村文化協会 保健室 第160号、pp. 60-61	ポーランドのヤヌシュ・コルチャック協会の活動を概観した上で、協会員として活動している学校教員による教育実践を紹介している。
5．ポーランド・コルチャック研究④子どもたちとの出会い	単著	平成24年8月	（社）農山漁村文化協会 保健室 第161号、pp. 78-79	ヤヌシュ・コルチャック協会が、コルチャック生誕130周年を記念して開催したイベントの概要、またそこでの子どもとの出会いや大人と子どもの交流について記している。
6．ポーランド・コルチャック研究⑤日本からの訪問者と訪ねたコルチャックの足跡	単著	平成24年10月	（社）農山漁村文化協会 保健室 第162号、pp. 88-89	コルチャックに関心を持つ日本の研究者や実践家と共に訪問したコルチャックのゆかりの地である、二つの孤児院―今も児童養護施設として存在する―とゲットー跡地、トレブリンカ絶滅収容所跡について記している。
7．ポーランド・コルチャック研究⑥五年間の留学を振り返って	単著	平成24年12月	（社）農山漁村文化協会 保健室 第163号、pp. 76-77	ポーランドでのコルチャック研究を通じて学んだことや出会いについて、また今後の研究の課題と展望について記している。
8．コルチャック研究を通して日本の子どもの現状をみる	単著	平成25年7月	(福)大阪福祉事業財団 福祉のひろば 第525号、pp. 74-75	子どもは、母親の胎内にいる時から、「人格をもつ一人の人間」であり「尊重されて然るべき」存在であるというコルチャックの子ども観や彼が主張した子どもの「生きる権利」―それは安心して日々を送り、希望をもち、挑戦したり失敗したりしながら主体的に生きる権利―について言及した上で、自立援助ホームで働いた経験から、それらが全ての子どもに当てはめることができない日本の現状について言及している。
9．子どもの権利保障の視点から「その子らしく、その親らしく」を支える保育を考える	単著	平成28年11月	乳幼児療育研究第29号 pp. 83-85	北海道乳幼児療育研究会第２９回研究大会の「保育」部会において、「“その子らしく、その親らしく”を支える保育とは」というテーマで行われた幼稚園教諭２名の実践報告に対し、子どもの権利論や障がい児の権利に言及しながら、自分の考えや思いを伝えたり、仲間の考えや思いを聞いたりしながら集団の中で“その子らしく”いられるような保育者の援助のあり方について議論、提言した。本稿はその時の報告書である。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） 10.『わたしは、ダニエル・ブレイク』を通して“子どもの最善の利益”を考える	単著	平成29年12月	子どもの虐待とネグレクト第19巻3号、 pp.351-355	映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』に登場するシングルマザーと二人の幼い子どもたちの生活が大人社会の制度の中で翻弄されている様子から子どもの最善の利益保障について問題を提起している。子どもの権利条約では最善の利益を保障するために子どもの意見を尊重すべきだとしているが、乳幼児の意見表明権については軽視されてきたことを踏まえ、幼い子どもも自身の経験や気持ち、考え、要求などを言葉で表現していることを指摘している。
11.金澤周作著『チャリティの帝国―もうひとつのイギリス近現代史』	単著	2022年6月	『貧困研究』第28号 pp.91-92	金澤周作著『チャリティの帝国―もうひとつのイギリス近現代史』（岩波書店、2021年）の内容について紹介した上で、「人権とチャリティ」、「19世紀末から戦間期のチャリティと今後」という視点から論点を提示している。
12.書評 宇都榮子・小笠原強・桜井昭男・菅田理一・村上葵編著『ポーランド児童救済事業の記録 ：『波蘭児童関係日誌』一九二〇～一九二二年』	単著	2022年12月	『社会事業史研究』第62号、 pp.148-154	宇都榮子・小笠原強・桜井昭男・菅田理一・村上葵編著『ポーランド児童救済事業の記録 ：『波蘭児童関係日誌』一九二〇～一九二二年』（彩流社、2022年）の内容について紹介した上で、本書の意義を指摘し、ポーランドの先行研究との比較から論点を提示している。
13. 書評　大澤亜里著『ヤヌシュ・コルチャックの教育実践:子どもの権利を保障する施設養育の模索』りぷらい	単著	2023年2月	『社会福祉学』第63-4号、 pp.90-92	拙著『ヤヌシュ・コルチャックの教育実践：子どもの権利を保障する施設養育の模索』に対する上鹿渡和宏氏の書評へのリプライであり、現在の日本の社会的養護が抱える課題とコルチャックの実践との対応、社会的養護の場における子どもの権利保障と施設職員の任務について述べた上で、今後の課題として第二次世界大戦中のコルチャックの実践を解明していく際の重要文献について紹介している。
14.連載Dr.コルチャック著『子どもをいかに愛するか』を読む㉑―「孤児たちの家」の創設―	単著	2024年12月	『子どものしあわせ』第886号、pp.30-33	ヤヌシュ・コルチャックの代表作『子どもをいかに愛するか』の「ドム・シエロット（孤児たちの家）編」の翻訳紹介を4回にわたって行った1本目である。ここではドム・シエロットについて紹介した上で、創設時、コルチャックが何を考えていたのか、本編をもとに解説した。

著書,学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） 15.連載Dr.コルチャック著『子どもをいかに愛するか』を読む㉒―ドム・シエロットにおける実践①―	単著	2025年1月	『子どものしあわせ』第887号、pp.30-33	翻訳紹介の2本目では、ドム・シエロットで導入された教育方法の内、子どもたちが生活する場には欠かせないものである“掲示板”、“棚”、“落し物入れ”について、これらの意義やどのように取り入れていたのかを本編をもとに解説した。
16.連載Dr.コルチャック著『子どもをいかに愛するか』を読む㉓―ドム・シエロットにおける実践②―	単著	2025年2月	『子どものしあわせ』第888号、pp.30-33	翻訳紹介の3本目では、子どもたち自らが生活している場の運営に従事し、仲間や職員と共同しながら生活する―これをコルチャックは「労働」と呼ぶ―上で重要な役割を果たした“係り仕事”について、本編をもとに解説した。
17.連載Dr.コルチャック著『子どもをいかに愛するか』を読む㉔―ドム・シエロットにおける実践③―	単著	2025年3月	『子どものしあわせ』第889号、pp.30-33	翻訳紹介の4本目では、3本目に引き続き「労働」に着目し、ドム・シエロットで導入された“仲間裁判”や“議会”について解説した。コルチャックが執筆していた“裁判新聞”を引用しながら、導入時、彼が感じていた迷いや困惑も含めて紹介した。